

「大阪オープン・イノベーション・マッチング会」 参加申込書

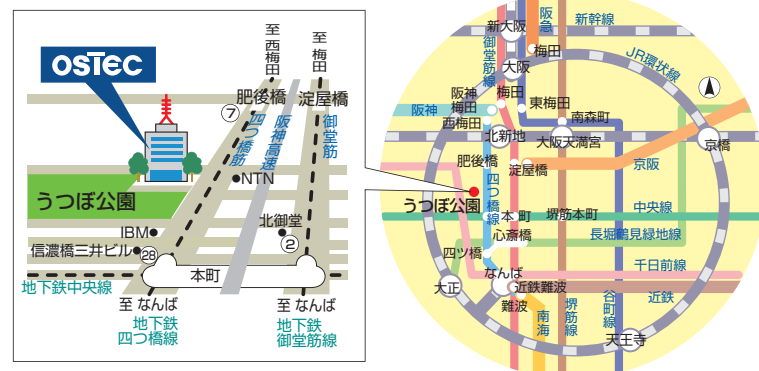
FAXまたはE-mailでお申し込み頂きますようお願い申し上げます。



E-mailでのお申込み E-mail: openinnovation@ostec.or.jp FAXでのお申込み FAX: (06)6443-5319

貴社名	
貴部署・御役職	御名前(フリガナ)
御住所 〒	
TEL	FAX
E-mail	
個別面談	<input type="radio"/> 希望する <input type="radio"/> 希望しない
個別面談を希望する研究シーズ ※番号をご記入下さい。 ()	

※本申込書に記載された個人情報は、本件に係る確認・連絡及び、当団体の関連するイベント等のご案内をさせていただくことがあります。お断りのお申し出がない場合は、ご了承いただいたものとさせていただきます。なお、ご本人の了解なしに、第三者へ提供したり、預託することはありません。



お問い合わせ先

(財)大阪科学技術センター
イノベーション推進室(担当:米田)
TEL: (06) 6443 - 5322

「オープンイノベーションフォーラムOSAKA」のお知らせ

うめきた、そして「(仮称)大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジ」から生まれる未来
～平成25年春のまちびらきにむけて～



プログラム

- 開会挨拶** 平松 邦夫(大阪市長)
- 基調講演** うめきた、「(仮称)大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジ」を起点としたグローバルイノベーション共創都市 大阪の可能性
アレク・マイナー(株式会社サンブリッジ 代表取締役会長兼CEO)
- パネルディスカッション** テーマ(予定)「うめきた」で起こすオープンイノベーションOSAKAモデル
パネリスト アレン・マイナー(株式会社サンブリッジ 代表取締役会長兼CEO)
木ノ下 智恵子(大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター 特任准教授)
中村 稔(経済産業省 近畿経済産業局 総務企画部長)
松本 毅(大阪ガス株式会社 技術戦略部 オープンイノベーション室長)
平松 邦夫(大阪市長)
- モデレータ** 西尾 章治郎(大阪大学 理事・副学長)
- テーマ講演** 大阪大学と「(仮称)大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジ」の連携
ライフイノベーション分野(ロボットテクノロジー・医工連携):
澤 芳樹(大阪大学 大学院医学系研究科 教授)
グリーンイノベーション分野(環境・エネルギー):
山中 伸介(大阪大学 大学院工学研究科 教授)
可視化技術分野:
榎並 和雅(独立行政法人 情報通信研究機構 理事)
- 総括および閉会挨拶** 西尾 章治郎(大阪大学 理事・副学長)

日時・会場

2011年8月23日(火)
13:30~17:00

於:大阪国際会議場
(グランキューブ大阪)

定員:200名 参加無料!

※申込多数の場合は抽選。

問合せ先

大阪市 計画調整局 企画振興部
科学技術振興担当
Tel: 06-6208-7823
(平日9:00~17:30)
※下記のHPからお申込みいただけます。
<http://www.oiforum.jp/>

主催:大阪市、大阪大学(創立80周年記念事業)

後援(予定):総務省近畿総合通信局、経済産業省近畿経済産業局、社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所

産学官連携を推進

大阪オープン・イノベーション マッチング会

第2回グリーンイノベーション

(第1回大阪グリーンテクノロジー・マッチングフォーラムを改称し、拡大して継続開催)

開催日時

2011年
8月8日(月)
13:00~17:55

●講演「蓄電池の技術動向と産学官連携」

●大学が保有する研究シーズのプレゼンテーション

●平成23年度大阪市・助成制度の説明

●発表者と企業との個別面談の場を設定

**参加費
無料**

開催場所

(財)大阪科学技術センター 8階 中ホール及び小ホール

※参加申込締切:8月3日(水)まで

(ただし、定員(120名)になり次第締切らせていただきます。)

主催:大阪市、大阪商工会議所、(財)大阪科学技術センター

大阪オープン・イノベーション マッチング会

第2回グリーンイノベーション

◆ 趣 旨

環境・エネルギーの各技術分野を対象として、大阪地域の大学が保有する優れた研究シーズをもとに、企業に対して共同研究など産学官連携を呼び掛ける場を設定して、企業とのマッチングが図れる機会を提供することにより、大阪発の新たな製品や新ビジネスの創出を促進する。

◆ プログラム

開会挨拶 及び 講演 (8 階中ホール)

1. 開会の挨拶・・・(13:00～13:05)
大阪市
2. 講演「蓄電池の技術動向と産学官連携」・・・(13:05～13:35)
独立行政法人産業技術総合研究所 辰巳 国昭 氏

研究シーズの発表 及び 閉会挨拶 (8 階中ホール)

1. 大学の研究シーズ プレゼンテーション
前半 (①～④) のプレゼンテーション・・・(13:40～15:20)
後半 (⑤～⑦) のプレゼンテーション・・・(15:30～16:45)
2. 大阪市・助成制度の説明・・・(16:55～17:35)
大阪市計画調整局、経済局
3. 閉会の挨拶・・・(17:35～17:40)
財団法人 大阪科学技術センター イノベーション推進室長 近藤 正嗣

個別面談 (8 階小ホール内個別ブース)

1. 前半の研究シーズに対する個別面談・・・(15:30～16:30)
2. 後半の研究シーズに対する個別面談・・・(16:55～17:55)

大学の研究シーズに対して、研究内容に興味がある方、共同研究等の取組みを検討される企業の方々に対して、研究者と個別面談ができる場を提供致します。
なお、個別面談を希望される方は「参加申込書」に面談を希望する研究シーズの番号を記入して下さい。

講演の概要

テーマ：「蓄電池の技術動向と産学官連携」

独立行政法人産業技術総合研究所 ユビキタスエネルギー研究部門 主幹研究員 辰巳 国昭 氏

講演要旨：蓄電池は、携帯型情報機器だけでなく、自動車用途においても重要な技術となりつつあるが、最近では、非常用電源から系統電力の安定化、自然エネルギーの需給調整用途に向けた応用が注目されている。
蓄電池の種類と技術動向について概説するとともに、これらの用途に向けた課題解決に関する産学官連携の事例を紹介する。

研究シーズの概要

研究シーズ/研究者	発表内容
① 太陽電池 大阪府立大学 准教授 津久井 茂樹	「ハイブリッド太陽エネルギー利用素子」 太陽電池と熱電材料を利用して、太陽の光エネルギーと熱エネルギーから発電するハイブリッド素子を開発している。太陽電池は Si 系または有機系を、熱電材料は室温～100℃付近で高い熱電変換効率を得られる Bi-Te 等を用いる。熱電材料は太陽電池とのハイブリッド化による発電の他に、住宅の壁や窓での発電、温水・冷水を利用した発電、体温による発電などが可能となり、今まで捨てられていた熱から発電することができる。熱電材料の効率を向上させることで、今まで捨てられていた熱から電力を得ることができる。
② 太陽電池 大阪電気通信大学 教授 松浦 秀治	「塗布型高分子系有機薄膜太陽電池の作製と評価」 最も盛んに研究・開発されている低分子系有機薄膜太陽電池は現時点では変換効率が高いが、有機薄膜を形成するためには真空装置を必要とし、かつ大気中での劣化を防ぐためには完全な封止が必要である。 一方、我々が研究している高分子系有機薄膜逆型太陽電池は、(1) 大気中での塗布（または印刷、スピンコート）法で簡単に作成でき、(2) 封止しない場合も大気中での劣化が少なく、(3) 色素増感太陽電池とは異なり、太陽電池中に液体（電解液）が含まれないという特徴を持つ。つまり、低価格で、量産性に優れ、長寿命である。 現在、市販の有機半導体溶液 (P3HT・PCBM、PEDOT・PSS 等) を用いて、太陽電池の製作と測定・解析法の構築を行っている。
③ 太陽電池 近畿大学 准教授 大久保 貴志	「配位高分子を増感色素とした有機太陽電池」 配位高分子は金属イオンと架橋有機配位子からなるポリマー構造を有する無機・有機複合材料であり、近年活発に研究されている。しかしながら、太陽電池やトランジスタなどの光電子材料としての応用例はほとんど報告されていない。本研究では銅イオンを用いて種々の新規配位高分子を合成し、その伝導性や誘電性に関して研究してきたが、最近ではその特性を生かした新しい太陽電池の開発を行っている。その結果、いくつかの配位高分子が色素増感太陽電池の増感色素として機能する事や、有機ポリマーからなるバルクヘテロ型太陽電池に配位高分子を添加することでその光電変換効率が向上することなどを見出している。
④ 太陽電池 大阪大学 特任教授 釘宮 公一	「環境／資源リスクの無い次世代太陽電池 CZTS の要素技術」 次世代太陽電池として期待される、環境負荷や資源の制約が少なく低廉な複合硫化物 (CZTS: Cu ₂ ZnSnS ₄) 系塗布型太陽電池の研究開発における技術シーズの概要を紹介する。 特に、硫化物を混合し仮焼した後に nm レベルへ高速で超微粉砕するナノパウダー微粉砕技術や、硫化金属薄膜の形成技術 (3層の金属めっき後に硫化、金属塩水溶液をチオ尿素／アルカリで化学的に硫化し析出) などについて紹介し、微粉砕技術の他分野への応用や硫化物系ナノペーストの共同開発、太陽電池に必要な導電材料の開発について協業や協力を求める。
⑤ 燃料電池 摂南大学 教授 松尾 康光	「ゼロエミッションをめざす生体由来の燃料電池の開発・研究」 自然界に豊富に存在するコラーゲンやコンドロイチン等を基盤とした生体由来のプロトン伝導体および燃料電池を提供する。例えば、生体由来の物質であるコラーゲンは電気材料という観点で使用される例はこれまでなかったが、加湿下において高いプロトン伝導性を示すこと、コラーゲンを燃料電池電解質に直接利用した単セルでは、比較的良好な発電特性が得られることを見出した。また、コンドロイチン硫酸をポリマー化したジェル膜についても発電特性を調べており、このジェル膜も燃料電池電解質となることを明らかにしている。
⑥ リチウムイオン電池 関西大学 助教 清水 智弘	「高品質シリコンナノワイヤの大量合成」 シリコンナノワイヤはリチウム電池の電極材料、高効率太陽電池、高感度センサーなどへの応用が期待される。たとえば、現行のリチウムイオン電池の負極材料にシリコンを用いることで、電池のエネルギー密度は飛躍的に増加すると期待されている。しかしシリコンは充放電により体積が著しく変化するため、バルクでは数回の充電で電極が壊れてしまう。充放電時の応力を緩和し、さらに電極面積を広くする、シリコンナノワイヤが電極材料として注目を集めている。本シーズでは直径長さを制御した単結晶シリコンナノワイヤを大量合成する方法を紹介する。
⑦ 有機スピン電池 大阪市立大学 教授 佐藤 和信	「有機二次電池デバイスの微視的評価と機能」 安定な有機ラジカルを活性物質とする高速充放電可能な二次電池デバイスに、マイクロ波パルスを用いる電子磁気共鳴 (ESR) 法を適用することにより、電池デバイス内の電気化学を解明する手法を開発している。電子固有の性質であるスピン物性を直接的に観測することにより、分子の電子状態に基づく電池デバイスの基本設計などを行い、デバイスの高効率化、高機能化を可能とする。電子スピン共鳴現象の電流検出による観測を行い、電池デバイスのその場観測を実現することにより、電池デバイスにおける電極構造と電池機能の相関評価が可能である。